

DIALOG(R) File 347:JAPIO  
(c) 2003 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

00548007  
SKATE BOARD-SKI DEVICE

PUB. NO.: 55-035607 A]  
PUBLISHED: March 12, 1980 (19800312)  
INVENTOR(s): DONARUDO AARU DOTOSON  
RONARUDO AARU SUMISU  
APPLICANT(s): DONARUDO AARU DOTOSON [000000] (An Individual), US (United  
States of America)  
RONARUDO AARU SUMISU [000000] (An Individual), US (United  
States of America)  
APPL. NO.: 53-106321 [JP 78106321]  
FILED: September 01, 1978 (19780901)

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55—35607

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 63 C 17/18

識別記号

庁内整理番号  
6692—2C

④ 公開 昭和55年(1980)3月12日

発明の数 2  
審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑭ スケートボード・スキー装置

⑪ 特 願 昭53—106321

⑫ 出 願 昭53(1978)9月1日

⑬ 発 明 者 ドナルド・アール・ドトソン  
アメリカ合衆国カリフォルニア  
州コスタメサ・ウオーレス・ア  
ベニュー1837

⑭ 発 明 者 ロナルド・アール・スミス  
アメリカ合衆国カリフォルニア  
州サンタアナ・パークレイ・ス

トリート318イー

⑮ 出 願 人 ドナルド・アール・ドトソン  
アメリカ合衆国カリフォルニア  
州コスタメサ・ウオーレス・ア  
ベニュー1837

⑯ 出 願 人 ロナルド・アール・スミス  
アメリカ合衆国カリフォルニア  
州サンタアナ・パークレイ・ス  
トリート318イー

⑰ 代 理 人 弁理士 杉村暁秀 外1名

明 細 書

1. 発明の名称 スケートボード・スキー装置

2. 特許請求の範囲

1. 車輪およびトラック組立体を有するスケートボードに取付け可能なスケートボード・スキーであつて:

ほぼ平坦で細長い中央部を有する滑走部材;  
滑走部材の少なくとも一端に形成された立上がり突部;

滑走部材をスケートボードに対して取外し可能な取付ける手段;

滑走部材と一体に形成され、前記取付け手段がその上に固定されたストラット支持手段;  
ならびに

滑走部材の下面に一体に形成されたランナー手段;

を具えるスケートボード・スキー。

2. 第1項のスケートボード・スキーにおいて、

滑走部材の前端に立上がり突部を設け、後端にはキックアップ手段を設けて抗力の発生を

よび雪との結束を防止するスケートボード・スキー。

3. 第1項のスケートボード・スキーにおいて、一対の立上がり突部を設け、その各々を滑走部材の各端部に配置したスケートボード・スキー。

4. 第2項のスケートボード・スキーにおいて、ストラット支持手段として一対の細長いストラット部材を相互に平行に配置し、ストラット部材の中央に凹部を形成し、スケートボードの一部を凹部内に取出し可能に収めたスケートボード・スキー。

5. 第4項のスケートボード・スキーにおいて、滑走部材をスケートボードに取付ける留め手段として各ストラット部材に保持手段を設けたスケートボード・スキー。

6. 第5項のスケートボード・スキーにおいて、保持手段として:

ストラット部材に凹部の片側で取付けた細長いストラップ部材;ならびに

- 凹部の反対側に取り付けられ、ストラップ部材を受けるように配置され凹部内にトラック組立体の車輪を収めるのを許容するラフナ板；を具えるスケートボード・スキー。
7. 第4項のスケートボード・スキーにおいて、滑走部材をスケートボードに取り付ける前記手段としてストラップ部材の凹部内に受けられるクランプ手段を設け、クランプ手段および凹部を、車輪を外したトラック組立体が受けられるように配置したスケートボード・スキー。
8. 第6項のスケートボード・スキーにおいて、滑走部材には凹部に近接してその内側で拘束手段を設け、拘束手段により滑走部材のスケートボードに対する横変位を防止するスケートボード・スキー。
9. 第8項のスケートボード・スキーにおいて、ランナー手段として一对の細長いランナーを滑走部材の長手方向縁部に近接させ、かつ相互に平行に設けたスケートボード・スキー。
10. 第9項のスケートボード・スキーにおいて、滑走部材に上方および外方に突出する長手方向縁部材を設けたスケートボード・スキー。
11. スケートボード・スキーであつて；  
使用者をその上に支持する細長いプラットフォーム；  
プラットフォームの各端部に近接して取り付けられ、その各々が横方向に延在する車輪を有する一对のトラック組立体；  
トラック組立体の各々に対し取外し可能に取り付けられる一对の滑走部材；ならびに  
滑走部材をトラック組立体に取外し可能に取り付ける手段；  
を具えるスケートボード・スキー。
12. 第11項のスケートボード・スキーにおいて、各滑走部材に；  
ほぼ平坦な中央部；  
その少なくとも一端に配置された立上がり突部；  
滑走部材の上面の長手方向に沿つて形成さ

れ、前記取り付け手段がその上に固定されたストラップ手段；ならびに

滑走部材の下面で、その長手方向縁部に沿つて一体に形成されたランナー手段；  
を具えるスケートボード・スキー。

13. 第12項のスケートボード・スキーにおいて、滑走部材の前端に立上がり突部を設け、後端にはキックアップ手段を設けて抗力の発生および雪との結束を防止するスケートボード・スキー。

14. 第13項のスケートボード・スキーにおいて、前記取付手段として；

ストラップ部材に取外し可能に取り付けられる中央凹部を有するクランプブロック；

ストラップ部材の中央に配置され、トラック組立体の車輪を受けることにより車輪をその向に取付ける適合凹部；ならびに

クランプブロックをストラップ部材に取り付ける固定手段；  
を具えるスケートボード・スキー。

15. 第13項のスケートボード・スキーにおいて、キックアップ手段として滑走部材の後方縁部に沿つて上方に折曲げた部分を設けたスケートボード・スキー。

16. 第14項のスケートボード・スキーにおいて、軸受手段をクランプブロックおよびストラップ部材の各凹部内に配置し、車輪を軸受手段で支承したスケートボード・スキー。

### 3 発明の詳細な説明

本発明はスケートボードとして用いられる装置、特に雪面上で操作するスケートボード・スキー装置に関するものである。

スケートボードの分野において良く知られているように、この種のスポーツ器具は世界的に普及するに至っている。一般にスケートボードは平滑な平坦面上で使用し、器具の一部である車輪を確実に接地させることにより良好な操縦感を得るようになっている。しかし現時点においてスケートボードは、地表面の種類によつてだけでなく、気候条件によつてもその使用が制約されている。

すなわち、冬期において降雪地域では地表面が雪で覆われるので、スケートボードを使用することができない。

本発明は季節を問わずに使用することのできる装置を提供するものである。

すなわち本発明によれば公知のスケートボードと組合わせて使用できる滑走装置が得られる。滑走部材は、後述するように、ほとんどすべてのスケートボードの車輪に対して容易に取付け可能とする。滑走部材には、ほぼ平坦な中央部を有する細長い本体を設け、本体の前端を立上らせて突部を形成し、使用時に雪で覆われた地表面上での滑動を容易とする。本体の下面には相互に平行な後手方向のランナーを設け、スケートボード・スキーの前方への移動を制御可能とする。上面に一对の平行なリブ構造を滑走部材の一部として一体に形成し、リブ構造は2種類の異なる態様で構成する。その具体的構成について以下に説明する。

第1の態様においては、拡大状態開口を形成して既存のスケートボードの種々の寸法の車輪を受

け、取付け手段により滑走部材をスケートボードの前後のトラックの各車輪に対して確実に取付け可能とする。

第2の態様においては、本体の両端に立上がり突部を形成し、滑走部材を所望の方向に移動可能として曲芸が行なえるようにする。

本発明の主な目的は、公知のスケートボードに一对の滑走部材を取付けて、スケートボードを雪面上で使用可能とすることである。

他の目的は、スケートボードと組合わせて使用する滑走部材を提供し、スケートボードの車輪に代えて滑走部材を使用可能とすることである。

さらに他の目的は、安価に製造可能であり、構成が簡潔なスケートボード・スキーを提供することである。

以下、本発明を図示の好適な実施例について説明する。

第1をいし6図に示すように、典型的な公知のスケートボード10は一对の車輪およびトラック組立体12を有する。各組立体12には滑走部材14が

取付けられているものとする。

良く知られているように、スケートボードは細長いプラットフォーム16を具え、プラットフォームが木またはプラスチック材料により構成される。使用者は、プラットフォーム上に一方の足をのせ、他方の足をプラットフォーム上にのせる前にボードを地表面に沿って前方に押し出し、これにより両足でボード上に乗る。そのためにプラットフォームまたはボードには第1図に示すように一对の車輪およびトラック組立体が設けられている。すなわち、一方の組立体はその後部に取付けられる。これらの組立体はプラットフォーム16の下面に対してねじまたはボルト18により固定される。各組立体は本体20を具え、これに少なくとも1個の弾性部材22が取付けられて車輪部材24が本体20に対して相対変位するのを許容している。車輪およびトラック組立体の詳細構造はスケートボードの分野において公知である。

第1および6図に示すところから明らかなように、各車輪およびトラック組立体は一对の車輪26

を含み、これらの車輪が横方向に延在する車軸に取付けられ、かつナット28により保持されている。

スケートボードの用途を拡大するために、スケートボードを雪面上でも使用可能とする。したがって、滑走部材14は車輪に対して着脱可能に取付ける構成とする。そのため、滑走部材として従来細長形状とした部材30を設け、その中央部分をほぼ平坦に形成し、かつ前端を急に立上つた突部32として形成する。この突部は公知の水上市または雪上スキーにおけるものと類似しており、かつ同一の目的に供する。

本体の中央部分から後方に向けて、その幅は車輪26の幅よりも幾分広く形成する。車輪として種々の寸法のものがあるので、上記構成により広幅の車輪に対応可能とするためである。本体の幅は連続的に広がることができる。しかし、図示の好適例では本体を後方に突出するに従って幅が僅かに内向きにテーパ状となるように形成する。

本体の長さはその幅の約2〜3倍とし、高い安定性と移動制御性能が得られるようにする。さら

に、本体の後端にも上方への彎曲部 34 を形成し、これを「ヤックアップ手段」として作用させることにより滑走部材が車軸 24 の軸線を中心として振動する際の抗力の発生を防止する。上記彎曲部 34 によりスケートボードを種々の方向に転向せよとする際の抗力、すなわち首とのかみ合いの発生をも防止する。滑走部材 14 には、上方および外方へナーバが付けられた側壁 36 を形成する。このような側壁 36 を形成することにより、滑走部材と雪との間の相対変位を低めて円滑に行なわせることが可能となり、特に滑走部材がトラック組立体 12 の軸直軸線を中心として僅かに回転するターニング時に有利である。各滑走部材の下面に一对のランナー手段を設け、これらの手段は滑走部材の一部として一体に形成し、かつ相互に平行に滑走部材の長手方向に互を合わせて配置した一对のランナー 35 により構成し、ランナーはほぼ三角形断面形状とする。

滑走部材には、これをトラック組立体に対して取外すし可能に取付けるための手段を設ける。第

2, 3, 5 および 6 図に示すように、この取付手段として一对の細長いストラット部材 40 を設け、これらのストラット部材を相互に平行に後端から前端まで延在させる。これらのストラットは本体 30 に対する支持構造リブとして作用させる。したがって、その特定のモードにおいて、ストラット 40 は相互に離間し、第 3 図に示すように側壁 36 に近接して形成される。ストラットに凹部 42、例えば直径が車輪 26 のそれとほぼ等しい半円形状の大きな凹部を形成する。しかし、その直径は現在のスケートボードに使用されている車輪の種々の寸法および直径に対応できるように定める。これを可能とするために保持手段を設け、保持手段を本実施例においてはストラップ 44 により構成し、ストラップ 44 を、ストラット 40 に形成した孔 45 内にピン 46 でその一端において取付ける。ストラップ 44 の遊端に複数のラッチ孔 47 を形成し、これらのラッチ孔はラッチ板 50 の各片 48 を受入れるように配置し、ラッチ板はストラット 40 に対し適宜の様式で取付ける。このように、車輪寸法の異なる

種々のスケートボードに対して滑走部材 14 を容易に取付けることができる。

上述した取付け手段に加えて、本実施例においては滑走部材の一部として拘束手段を形成し、滑走部材 14 のスケートボードに対する横移動を防止する。この拘束手段として一对の垂直方向に延在する肩部 52 を設け、その各々をストラット 40 の内側と対向させ、かつ各凹部 42 と整列させることにより、各車輪 26 の内周を肩部 52 と係合させ、滑走部材 14 の側方への移動を制限する。

第 7 ないし 9 図は、滑走部材 14 をトラック組立体 12 に取付けるための手段についての変形例を示すものである。前述したように、トラック組立体 12 はプラットフォーム 16 に取付ける。しかし、本例においては先ず車輪 26 をトラックの車軸 28 より取外す。トラックの車軸に軸受スリーブ部材 55 を設け、各車軸および各軸受を、対向して配置されたストラット 58 に形成した対応する凹部 56 内に収める。車軸を所定位置に保持するため、クランプ手段 60 を設ける。このクランプ手段とし

てクランプブロック 62 を設け、このブロックにはその中央に凹部 64 を形成して、第 8 および 9 図に示すように車軸 28 をストラット 58 内に取付け可能とする。ブロック 62 はストラットに対して適宜の様式で取付けることができる。しかし、ブロック 62 は溝 66 内に配置するのが望ましい。その場合には、溝 66 により肩部 68 が形成され、外方に応力の生じるのが防止される。一对のボルト 69A を設け、これらのボルトを本例においてはストラット 58 に埋設し、かつ上方に突出させることにより、当業者には公知の様式でブロック 62 を貫通させ、ウイングナット 69B を締付ける。さらに、本例において車輪 26 の拘束手段は不要である。

第 10 図は、クランプ手段 70 を有する他の実施例を示すものである。クランプ手段としてのクランプブロック 72 をストラット 74 に対してボルト 75 により取付け、これらのボルト 75 をストラット 74 内にねじ込む。しかし、本実施例の重要な特徴は、上方に彎曲した付加突部を設けることにある。すなわち、滑走部材 14 にはその両端に突部

76を設け、スケートボード・スキーをいずれの方向にも使用可能とする。この実施例は曲芸用に好適である。

上述した実施例が単なる例示にすぎず、本発明を限定するものでないことは、首りまでもない。

#### ※図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を適用したスケートボードの側面図、第2図は車輪およびトラック組立体に取付けられた滑走部材の拡大側面図、第3図は第2図の3-3線に沿う横断面図、第4図は滑走部材の底面図、第5図は第2図に示す部材の正面図、第6図は同じくその背面図、第7図は本発明の他の実施例を適用したスケートボードの側面図、第8図は第7図に示す滑走部材の拡大側面図、第9図は第8図の9-9線に沿う横断面図、そして第10図は滑走部材の他の実施例の側面図である。

10…スケートボード、12…トラック組立体、14…滑走部材、16…ブラケットフォーム、20…トラック組立体、24…車軸、26…車輪、32…立上

がり突部、34…彎曲部、35…ランナー、36…側縁、40…ストラット部材、42…凹部、44…ストラップ、50…ラッチ板、52…肩部、54…軸受スリーブ、56…凹部、58…ストラット、62…クランプブロック、64…凹部、66…肩部、72…クランプブロック、74…ストラット、76…立上がり突部。

特許出願人 ドナルド・アール・ドトソン

同 出願人 ロナルド・アール・スミス

代理人弁理士 杉 村 良 秀

同 弁理士 杉 村 良 作

